未利用食品等の有効活用

資料２－４

これまでの施策に係る意見や課題

・フードバンク活動への協力企業の確保と提供品の円滑な受け渡しのためのネットワーク構築。
・フードドライブは特に若年層で認知度が低いため、認知度向上が課題。
・家畜飼料として利用可能なエコフィード資源の発掘及びマッチングと、エコフィード利用による畜産物の高付加価値化、ブランド化の推進が必要。

令和８年度の主な取組み

フードバンク活動の促進

＜目的＞
・県内のフードバンク活動の促進・定着

＜実施内容＞
富山県食品産業協会にフードバンク活動コーディネーターを設置
(1)食品提供事業者の開拓
食品関連事業者にホームページや研修会により、フードバンク活動への参加の働きかけを行う。
賛同企業数：Ｒ８．９月末現在43社
(2)受取側への働きかけ
・社会福祉協議会や子ども食堂等へ取組みを周知
・受取団体数：Ｒ８．４～９月末　10団体
(R7年度：21団体)
・食品の受け渡しについて連絡・調整
(3)マッチング
・事業者から寄せられた食品の情報をＨＰ上で発信
・提供情報や受取側の条件等を考慮し、マッチングを実施
・食品提供事業者と受取側とのマッチング

Ｒ８．４～９月末

マッチング件数：34件	(Ｒ７年度：54件)
提供企業数：３社	(Ｒ７年度：６社)
提供商品種類：13種	(Ｒ７年度：12種)
提供商品総数：6,209	(Ｒ７年度：9,210)
提供企業：かね七、梅かま、源	

(４)ホームページでの情報提供
随時、提供品可能商品の情報を掲載
受取希望調査表のダウンロード可能



フードドライブの拡大

＜目的＞
・家庭から発生する手付かず食品の有効活用の促進
・普及啓発やマッチングの推進によるフードドライブの拡大

＜実施内容＞
(1)フードドライブ実施団体への支援
・資器材（のぼり旗、コンテナボックス等）の貸出し
・食品提供側と受取側のマッチング支援
・新たに常設窓口を設置する企業への助言
・県ホームページでの実施団体PR

【フードドライブ実施状況】
40団体、常設81件（Ｒ７年度実績）
28団体（Ｒ８．４月～９月）、
常設84件（Ｒ８．９月末現在）


アルビス大島店


高岡第一高等学校

(2)食ロスゼロアクション推進事業（再掲）
フードドライブ訴求動画「フードドライブに参加しよう編」のショート版を作成し、YouTubeデジタル広告により動画配信（Ｒ８．９～11月）。





「富山のエコフィード」を利用した畜産物ブランド化の推進

＜目的＞
畜産農家における飼料自給率の向上及び地域内未利用資源の有効活用を推進する。

＜実施内容＞
(1)エコフィードの需給マッチングの推進
・エコフィードの栄養価や安全性分析の実施
(2)「とやま和牛 酒粕育ち」のブランド化の推進
①販売促進活動
・新たな商品開発に係る取組みへの支援
・イベントへの出展やSNSを活用したPR活動への支援
②新たな付加価値の発見
・牛肉の成分分析の実施
③生産体制整備
・関係機関による飼料購入実績確認
・酒粕給与台帳の確認

酒粕育ち
とやま和牛
TOYAMA WAGYU
【ロゴデザイン】

【定義】
①県内で12カ月以上飼育され、最長飼養地を本県とする黒毛和種
②県産の酒粕を出荷前3カ月以上給与
③(公社)日本食肉格付協会の実施する牛枝肉格付規格が4等級以上
【ロゴデザインの意味するもの】
・酒粕を食べて育った和牛をイメージしたシルエット
・原料の酒米の「米」の字を放射線状に配置
・8つに分割された部分は肉の色を表現
・口元の菱形は栄養豊富な酒粕を表現

今後に向けた取組みの方針

・提供事業者・提供品の拡大を図るとともにマッチング支援を行い、フードバンク活動の促進を図る。
・フードドライブ実施団体への支援（資材の貸出し、マッチング支援等）や実施結果の周知を継続するとともに、若者向けの啓発動画を活用して広報・普及啓発を強化することで、認知度向上と取組み拡大を図る。
・「とやま和牛 酒粕育ち」の生産拡大により酒粕利用量の増加を図るとともに、新たなエコフィード資源の発掘に努める。